

# 小中学生3人前座に

御代田・軽井沢などの住民有志が実行委員会をつくり、落語を通じて東日本大震災の被災者を支援する「信州すぐだせ落語会」を19日、佐久市の県佐久勤労者福祉センターで開く。お笑いが大好きだという地元小中学生3人が、プロの落語家の「前座」として落語の発表に挑戦する。「被災者にも楽しんでもらいたい」と、本書に向けて特訓を続けている。

## 地元で公募 収益は被災地へ

3人は、軽井沢町の軽井沢中部小5年番場翔君(11)、佐久市の臼田中1年由井南貴君(12)、佐久長聖中1年本純君(13)の落語を披露。週1回、海老原全員、落語の経験はない。8月下旬に軽井沢町軽井沢の放送作家、海老原靖芳さん58に「弟子入り」した。

番場君は、海老原さんが創作し、信州のネタをちりばめて医者と思いがやりとりする約7分の落語を披露。週1回、海老原さんの自宅に通って指導を受けている。表情豊かに一人二役を演じる番場君は「学校に(被災地から)避難している友達もい



## 19日本番「少しの間でも笑顔になって」

て、大変な話も聞いた。本書は来場者に少しの間だけでも笑顔になってもらう」と意気込む。同様に海老原さんの指導を受ける由井君と本本君と一緒に「長野の寿限無」の題で、県内の方言などを盛り込んだ創作落語を披露する。

震災以降、何か力になりたいと考えていた海老原さんは、被災地へ独自に物資を送っている御代田町の会社社長、大井康史さん(46)に相談。大井さんが支部の「地域社会貢献事業」の事業費を利用し、地域の人に楽しんでもらい、収益を義援金に充てる落語会を計画した。子どもが落語に関心をもつ機会にもしようとして「前座」を募集した。

海老原さんは「震災でつらいことも多いが、笑うことで前向きになるきっかけの一つにしたい」と話している。落語会は今後も続ける考えだ。

当日は午後2時開演で、落語家の瀧川鯉昇さん、柳家喜多八さんが出演。大人2千円、小中高生千円(被災者と、社会福祉協議会を通じて被災地にボランティアへ行った人は無料)。問い合わせは落語会事務局(☎02677・32・3333)へ。

海老原さん(左)に教わりながら落語の練習をする番場君